

住吉区総合教育会議

令和 6 年度 主な教育・子育て関連事業

目次

1. 教育活動支援事業

- ◆ スクールソーシャルワーカー（SSW）配置…………… 1
- ◆ 「すみよし学習クラブ」及び「すみよし学習クラブ（ジュニア）」
自主学習習慣づくり支援事業…………… 2、3
- ◆ 「漢字検定チャレンジ支援」自主学習習慣づくり支援事業…………… 4
- ◆ 「学校園補助スタッフの活動支援」学校園教育活動支援事業…………… 5
- ◆ 「福祉施策ガイドブック」の作成 学校園教育活動支援事業…………… 6
- ◆ 子ども・若者育成支援事業…………… 7
- ◆ すみよし学びあいサポート事業（生活困窮世帯の中学生への学習支援）…………… 8
- ◆ 発達障がい教育支援事業…………… 9
- ◆ こどもの朝食欠食率改善推進事業…………… 10、11
- ◆ 生涯学習推進員の支援・はぐくみネット事業の推進…………… 12
- ◆ 防災・減災教育と活動の展開…………… 13

2. 児童虐待防止関連事業

- ◆ はぐあっぷ「地域の拠点づくり・潜在的リスクへのアプローチ事業…………… 14、15
- ◆ 住吉区版「重大な虐待ゼロ」に向けた地域・医療連携ネットワーク事業…………… 16
- ◆ すみちゃんまちぐるみ「こども安心」見守り事業…………… 17、18

3. 子育て支援関連事業

- ◆ こどもサポートネット事業…………… 19
- ◆ すみちゃん子育て情報フェア…………… 20

スクールソーシャルワーカー（SSW）配置

令和6年度予算:4,787 千円

1. 目的

児童生徒をめぐる問題（不登校、いじめ、虐待）については、学校だけでの問題解決が困難なケースも多く、積極的に関係機関等と連携した対応が求められている。各中学校に社会福祉等に関する専門的な知識や技術を有するSSWを派遣することにより、学校と外部の関係諸機関との連携体制を構築し、児童生徒と家庭（保護者）の問題解決に繋がるようサポートする。

2. 内容

不登校やいじめ等の生徒指導上の課題に対応するため、社会福祉等に関し専門的な知識や技術を用い生徒が置かれている様々な課題を分析・評価し支援するSSW1名を配置している。

SSWは、週3日・1日6時間 我孫子南中学校を拠点校として活動し、「こどもサポートネット事業」と連携して支援を行っている。各学校園からの要請に応じて派遣も行う。また、SSWに対し、専門的実践を行ううえでの指導・助言等をするスーパーバイザー（SV）を委嘱、月1回程度SSWへ指導・助言等を実施している。

3. 令和5年度事業 指標・実績

指標

SSWを活用して解決を図ろうとした事案36件以上

実績

SSWを活用して解決を図ろうとした事案 39件

- 対応件数39件（うち①不登校 16 件、②いじめ、暴力行為、非行等の問題行動6件、③友人・教職員等との関係の問題（②を除く）11 件、④児童虐待8件、⑤貧困の問題0件、⑥ヤングケアラー3件、⑦家庭環境の問題（④、⑤、⑥を除く）7件、⑧心身の健康・保健に関する問題（②、④を除く）6件、⑨発達障害等に関する問題9件、⑩性的マイノリティ1件）※重複あり
- スーパーバイザーによるスーパーバイズ 9 回
- こどもサポートネット SSW、推進員等との連携
- スクールカウンセラーとの情報共有
- 広報すみよし 3 月号にてSSWの取組報告

4. 令和6年度事業

指標

SSWを活用して解決を図ろうとした事案:36件以上

昨年度に引き続き、我孫子南中学校区を拠点校として、SSWを1名配置することとした。今年度においても拠点中学校と接続小学校との連携を引き続き行い、こどもサポートネットSSWや推進員等とも連携しながら、児童・生徒・家庭・教職員との信頼関係を構築し課題解決に向けて支援する。

1 教育関連事業

2

「すみよし学習クラブ」及び「すみよし学習クラブ(ジュニア)」 自主学習習慣づくり支援事業

令和6年度予算:418 千円

1. 目的

住吉区内の中学生及び実施する小学校の在校児童5・6年生を対象に、子どもの自主学習習慣の定着及び学習意欲の喚起、各学年・各生徒児童の習熟に応じた基礎学力向上を図るため、民間事業者と協定を結び、放課後の学校施設を利用して学習支援を行う。

2. 内容

【すみよし学習クラブ】

実施対象: 区内在住の中学生

実施場所 : 遠里小野小学校、我孫子中学校、墨江丘中学校

➤ 週2日、1日2コマ、各校30名程度

実施科目 : 国語・数学・英語(中3は定期テスト・入試前に理科・社会科も対応。)

参加者負担 : 月額1万円(大阪市習い事・塾代助成事業の利用も可能)

【すみよし学習クラブ(ジュニア)】

実施対象: 実施する小学校の在校児童5・6年生

実施場所 : 清水丘小学校、南住吉小学校、荻田北小学校

➤ 週2日、1日2コマ、各校30名程度

実施科目 : 国語・算数・英会話

参加者負担 : 月額1万円(大阪市習い事・塾代助成事業の利用も可能)

3. 令和5年度事業 指標・実績

指標

【すみよし学習クラブ】

受講後のアンケートで「受講前より学校の授業以外の学習時間が増えた」と回答する受講者90%以上

※すみよし学習クラブ(ジュニア)については令和6年4月より実施のため指標設定無し

実績

【すみよし学習クラブ】

90% 生徒数 63名(令和6年3月)

- 遠里小野教室 12人
- 我孫子教室 35人
- 墨江丘教室 16人

※すみよし学習クラブ(ジュニア)については令和6年4月より実施のため実績無し

1 教育関連事業

課題

- 令和5年度指標に対し、実績は達成となった
- アンケート全体では85%の生徒が満足したと回答しているが、全く自主学習をしていないと回答した生徒も20%程度おり、一部の生徒の学習意欲は低かった
- 参加生徒個々人の状況に応じたきめ細やかな指導の継続が重要

4. 令和6年度事業

指標

【すみよし学習クラブ】

受講後のアンケートで受講者が受講前より学校の授業以外の学習時間が増えた割合 80%以上

【すみよし学習クラブ(ジュニア)】

実施場所の学校関係者へのアンケートで「すみよし学習クラブ(ジュニア)」に参加して以降、受講者の学習意欲が高まったと感じる割合 65%以上

区内在住中学生を対象とした「すみよし学習クラブ」は、引き続き遠里小野小学校、我孫子中学校、墨江丘中学校の3教室で事業を実施し、新たに実施校の在校児童小学5・6年生を対象とした「すみよし学習クラブ(ジュニア)」を、清水丘小学校、南住吉小学校、荻田北小学校の3教室で開講し、本事業を小学5・6年生にも拡大していく。

1. 目的

令和5年度の全国学力・学習状況調査において、大阪市児童の国語の平均正答率は全国平均を下回っており、住吉区平均はさらに大阪市平均を下回る状況にあり、児童の学力向上が求められる。国語は、学力の基礎となる教科であり、漢字学習は、その重要な項目の一つである。目標設定をして漢字学習をすることで子どもたちの学習意欲を高めるとともに、自主学習の習慣づくりにも資するよう事業を実施する。

2. 内容

区内の小学校に通う児童(小学4～6年生のうち学校が選択する2学年)が漢字検定を受検することができるよう、検定料の支援を行う。

3. 令和5年度事業 指標・実績

指標

学校長へのアンケートで「漢検受検に際して、児童の家庭学習や授業以外での学習時間が増えた」と感じる回答: 70%

実績

100%

4. 令和6年度事業

指標

学校長へのアンケートで「漢検受検に際して、児童の家庭学習や授業以外での学習時間が増えた」と感じる回答: 90%以上

令和6年度は、小学3～6年生のうち学校が選択する2学年において、学習意欲の向上、自主学習習慣づくりができるよう、事業を実施する。

1. 目的

区内小・中学校および幼稚園において、学校園の課題に応じて活動する教育活動補助スタッフが、継続的に学校園をサポートすることができ、児童・生徒・園児がより充実した学校園生活を過ごせるよう支援を行う。

2. 内容

学校園で学習支援や特別支援児童・生徒・園児への支援、語学支援など各学校園の教育活動に応じて活動する補助スタッフに対し、活動実績に応じた報償金を支出し、活動支援を行う。

3. 令和5年度事業 指標・実績

指標

補助スタッフが活動する学校園において、区が行っている支援が自校園の教育活動に役立ったと感じる割合80%以上

実績

100%

区内小中学校園に60名が学校園補助スタッフとして活動

4. 令和6年度事業

指標

補助スタッフが活動する学校園において、「学校園補助スタッフの活動支援」は、学校における教育活動に役立っていると感じる小・中学校長の割合90%以上

学校園の課題に応じて活動する学校園補助スタッフが、継続的に学校園をサポートすることができ、児童・生徒・園児がより充実した学校園生活を過ごせるよう、引き続き支援を行う。

1. 目的

学校における不登校支援にあたり、福祉的行政サービスを利用できるケースにおいて、どの行政サービスが必要・適切であるかを教員に示すとともに、教員が保護者に区役所等の適切な行政サービスを受けるよう提案していけるよう、行政サービスの情報や仕組みを分かりやすく伝えるための冊子を作成する。

2. 内容

児童・生徒と家庭への支援につながる行政サービス情報を掲載した冊子「福祉施策ガイドブック」を作成し、区内の小中学校・幼稚園24校園へ配付(1校園あたり5部)する。また、住吉区ホームページにも冊子情報を掲載(6月)。

3. 令和5年度事業 指標・実績

指標

各学校園長へのアンケート調査において、当該冊子が不登校支援をはじめ、学校教育活動上「有効・有用である」との回答割合:100%

実績

100%

新たな取り組み

令和5年度より、「LINE による引きこもり相談」の紹介と、公式アカウントへ繋がる二次元コードを掲載した。

4. 令和6年度事業

指標

各学校園長へのアンケート調査において、当該冊子が不登校支援をはじめ、学校教育活動上「有効・有用である」との回答割合:100%

区内小中学校・幼稚園から更新・配付の要望があるため、引き続き冊子を作成・配付する。

学校園より要望のあった、問い合わせ先・二次元コードの一覧表を作成し、ラミネート加工をして冊子とともに配付する。

1. 目的

不登校やひきこもり等で悩んでいる若者や就労に自信が持てない若者が、社会生活を円滑に営むことができるようにするために、子ども・若者育成支援地域協議会を開催し、福祉や保健、教育、就労支援、医療などの関係機関が連携し、効果的かつ円滑な支援ができる体制を構築するとともに、相談事業や居場所づくり事業、関係機関や地域のネットワークを活用し、対象者やその家族を支援していく。

2. 内容

- 不登校やひきこもり等で悩む若者やその家族に対する相談(毎週火曜日・木曜日)や居場所事業(月1日 第3火曜日)を実施
- 区民向けの啓発として研修会やフォーラム等を開催

3. 令和5年度事業 指標・実績

指標

相談件数のべ350件以上

実績

相談件数のべ379件

- 自立アシスト事業やこどもサポートネット等により支援を受けていた者が、中学校卒業により支援終了後に本事業に円滑につなぐための事前登録制度を実施
- 若者がひきこもり状態からゆるやかに社会との接点を持てるよう、社会福祉施設と連携して「ゆるやかな就労」につなげる仕組みを設置

4. 令和6年度事業

指標

相談件数のべ350件以上

- 保護者のニーズを踏まえた新たな支援として「親の会」を隔月に実施していく
- 現在の支援対象者の特性により居場所が機能していないため、支援対象者の特性に応じた居場所のあり方やニーズに応じた効果的な支援について検討していく
- 子育て相談室、自立アシスト事業やこどもサポートネット等との連携を密にし、それらによる支援を受けていた者が、中学校卒業により支援終了後も切れ目なく本事業に円滑につなぐための事前登録制度について引き続き実施していく

すみよし学びあいサポート事業 (生活困窮世帯の中学生への学習支援)

令和6年度予算:4,503 千円

1. 目的

生活保護世帯を含む生活困窮世帯の中学生を対象に「学びあいの場」を提供。

地域ボランティアの活用や基礎学力向上のための学習支援を行うことにより、勉強意欲を高めて高校進学率を高めるとともに、不登校リスクのある生徒の問題解決を図る。

2. 内容

事業対象：学習意欲を有する中学生30～40名程度

実施場所：錦秀会住吉区民センター

実施回数：火曜日・金曜日(年間65回) 1回2時間(18時45分～20時45分)

実施内容：少人数での学習支援

受講料：無料

実施手法：株式会社キズキへ委託

3. 令和5年度事業 指標・実績

指標

- ① 参加生徒の出席率 80%以上
- ② 参加生徒の成績向上率 70%以上

実績

- ① 80.9%
- ② 75%

出席率および成績向上率について目標は達成している。

学習面での成果だけでなく、アンケート調査の結果、本事業の参加により規則正しい生活習慣を維持することができた。また、他の参加者の気持ちや感情をくみ取ることができたとの意見があり、9割の生徒から満足したとの回答を得た。

4. 令和6年度事業

指標

- ① 参加生徒の出席率 80%以上
- ② 参加生徒の成績向上率 70%以上

オンライン受講等も活用し、参加しやすい環境を整備するとともに参加生徒の意見を聞きとり、満足度の高い取組みを継続する。

発達障がい教育支援事業

令和6年度予算:8,998 千円

1. 目的

発達の特徴等が背景にあり、行動面・学習面・情緒面で困難を有する児童について、心理相談員が保護者からの相談や学校等関係機関との連携を通して、児童の成長発達を促進する。

2. 内容

心理相談員(2名配置)による当該児童・保護者との個別面接、行動観察等を通じた児童の特性の査定及び、特性理解について学校等関係機関に対するコンサルテーションやケースカンファレンスへの参加を行う。

3. 令和5年度事業 指標・実績

指標

本制度の利用で発達障がい児童の学校生活がスムーズになったと感じる学校の割合が80%以上

実績

100%

- 2名の心理相談員が160件のケースを分担して担当
- 保護者面談、児童との個別面談を定期的を実施。また、学校等関係機関と連携し、環境調整等を行っている。必要に応じ、ケース会議にも参加している。

4. 令和6年度事業

指標

制度の利用で発達障がい児の学校生活がスムーズになったと感じる学校の割合 80%以上

引き続き、2名の心理相談員を配置し、保護者からの相談や学校等関係機関との連携を通して、児童の成長発達を促進していく。

こどもの朝食欠食率改善推進事業

令和6年度予算:40千円

1. 目的

朝食を欠食する子どもの割合を減少させるため、平成29年度から令和元年度までの3年間、関係協力機関と協働でモデル校に対して学習事業を実施した。実施後の食生活に関するアンケート調査を踏まえ、夏休みの課題「バランス朝ごはんを作ろう！」を他校においても実施し、保護者への啓発を強化するため、朝食リーフレットを配布する。

2. 内容

- 区内中学校で、夏休みの課題「朝ごはんを作ろう！」を実施する
- 保護者懇談会の期間中やイベント時等において、校内でフードモデルを展示し、保護者や生徒への啓発を図る
- 保護者懇談時等において、「朝ごはんを食べよう！」を題材としたリーフレットを保護者に配付する

3. 令和5年度事業 指標・実績

指標

- ① 夏休み課題「朝ごはんを作ろう！」の実施を区内中学校全校に広める
- ② 区内中学校全新1年生に朝食啓発用冊子を配付
- ③ 区内中学校全校で懇談時等において、保護者に「朝ごはんを食べよう！」を題材としたリーフレットを配付

実績

- ① 区内中学校7校で「朝ごはんを作ろう！」を実施
- ② 区内中学校全新1年生に朝食啓発用冊子を全中学校で配付
- ③ 保護者懇談時等において、「朝ごはんを食べよう！」を題材としたリーフレットを全中学校で配付

- 「朝ごはんを作ろう！」の実施について

実施時期や実施対象者については、各校の状況に合わせて夏休み以外での実施や部活動等での実施も可とした。また「バランスの良い」だけでなく、各校の目的に合わせたテーマで「朝ごはん」を考えてもらうこととした。

区内1校については、他の取組みがあったため「朝ごはんを作ろう！」の実施が難しく、冊子及びリーフレットの配付のみとなった。

なお実施前後のアンケート調査の実施協力は6校に増え、うち4校で「朝食を毎日食べる者」の割合が増加していた。

- 朝食啓発用冊子の配布について

各校の状況に合わせて、授業やホームルーム等において配付

指標

- ① 夏休み課題「朝ごはんを作ろう！」の実施を区内中学校全校に広める
- ② 区内中学校全新1年生に朝食啓発用冊子を配付
- ③ 区内中学校全校で懇談時等において、保護者に「朝ごはんを食べよう！」を題材としたリーフレットを配付

「朝ごはんを作ろう！」の実施については、昨年度の状況を踏まえ、今年度も朝ごはんを考えるテーマは各校において設定し、実施期間についても基本は夏休みとするが、難しい場合には別の機会に実施することも可能とする。

また対象者も学年単位ではなく、部活動等での実施も可能とする。

朝食啓発用冊子を活用し、朝ごはんだけでなく睡眠等の生活リズムを整えることの大切さを伝える機会とするとともに、保護者向けリーフレットにより、生徒だけでなく保護者に対しても朝ごはんの大切さについての普及啓発を図る。

また保護者懇談会の期間中や文化祭等のイベント時等において、校内でフードモデル及び朝食啓発用ポスターを展示し、保護者や生徒への啓発を図る。

1. 目的

生涯学習推進員やはぐくみネットコーディネーターの活動を支援し、小学校を拠点とした学習機会の提供、地域における人と人や諸団体の間の繋がりを深めていくことで、豊かな地域教育コミュニティづくりをすすめる。

2. 内容

「生涯学習推進員」「はぐくみネットコーディネーター」の活動支援として、会議の開催支援や研修・交流会を実施し地域活動における教育コミュニティづくりに関する見識を深めたり、ボランティア同士のコミュニケーションを深める機会をつくる。(令和6年6月末現在：生涯学習推進員 55名、はぐくみネットコーディネーター 93名)

3. 令和5年度事業 指標・実績

指標

- ① 「学習の成果を学校園・地域に還元できたと思う」と回答した生涯学習推進員の割合:75%以上
- ② 「はぐくみネットコーディネーターの活動により、子どもの教育のための地域のネットワークが前年度に比べて深まったと思う」と回答したはぐくみネットコーディネーターの割合:60%以上

実績

- ① 83.3%
 - 生涯学習ルーム事業の区広報紙特集記事(9月号) ● HP等による広報(常時)
 - 住吉図書館における生涯学習ルームの作品展示及び事業紹介(11月)
 - 第26回すみよし区文化フェスティバル(作品展示会)(2月17日開催)
- ② 85.7%
 - はぐくみネットコーディネーター会議・研修会の開催(7月3日、3月27日)

4. 令和6年度事業

指標

- ① 「学習の成果を学校園・地域に還元できたと思う」と回答した生涯学習推進員(各校区)の割合60%以上
- ② 「はぐくみネットコーディネーターの活動により、こどもの教育のための地域のネットワークが前年度に比べて深まったと思う」と回答したはぐくみネットコーディネーター(各校区)の割合60%以上

生涯学習・地域教育を推進する委嘱ボランティア(生涯学習推進員、はぐくみネットコーディネーター)活動を支援し、各地域活動協議会が実施する生涯学習ルーム事業、はぐくみネット事業の活性化を図ることを通して、学校を核とした住民主体の学校支援や地域ぐるみの子育て・教育活動を推進する。

防災・減災教育と活動の展開

令和6年度予算:なし

1. 目的

地域での安否確認や避難訓練、学校での防災講演や体験型の防災学習を行い、地域・学校が連携して防災事業を進める。

2. 内容

- 学校と地域との合同訓練の実施
- 区役所と連携した学校での防災学習の実施
- 区総合防災訓練(毎年11月第2土曜日:午前中)

3. 令和5年度事業 指標・実績

指標

ここ1、2年お住まいの地域(小学校区)の防災力が向上したと感じている区民の割合45%以上

実績

- 区民意識調査の結果 25.5%
- 区役所と連携した学校での防災学習の実施 8校
 - 小学校： 荻田(7月29日)、荻田南(9月11日、12月1日)
 - 中学校： 我孫子南(6月23日)、墨江丘(6月28日、11月25日、2月1日)、東我孫子(7月29日)、大領(9月8日)、大和川(11月30日)
 - 高校:建国(3月2日)

4. 令和6年度事業

指標

「災害に対する家庭での備えや避難行動の把握ができています」と回答する割合 60%以上

- 区総合防災訓練については、毎年11月の第2土曜日(11月9日)午前中に実施予定。
- 各地域が迅速かつ円滑な避難所の開設・運営が行えるよう訓練を実施し、地域防災力の向上をめざす。また、できる限り多くの区民に訓練に参加してもらえるよう検討を行う。
- 学校と地域との合同訓練及び区役所と連携した学校での防災学習については、要望に応じて実施していく。

2 児童虐待防止関連事業

1

はぐあっぷ「地域の拠点づくり・潜在的リスクへのアプローチ」事業 (児童虐待防止対策事業・はぐあっぷ推進事業)

令和6年度予算:13,193千円

5. 目的

子育て世帯の身近な相談の場を確保するとともに、見守りが手薄な対象へのアプローチを行い、潜在的リスク把握と必要な支援につなげることで、虐待による死亡事案ゼロの状態を維持する。

6. 内容

- 地域の拠点(地域集会所等)に子育ての専門職(非常勤の保育士、看護職など)が定期的に巡回し、子育て世帯の身近な相談の場を確保する。また、こどもや子育て世帯を見守る地域ボランティア等への情報提供を通じて、地域における支援力の向上を図る
- 乳幼児健診の狭間期である2歳6か月児を対象に、全家庭への質問書送付等によるポピュレーションアプローチを実施する
- 要対協登録事例の中で特に潜在的リスクが懸念される保育所・幼稚園等の所属のないこども、特定妊婦、乳幼児健診未受診者、保育所・幼稚園等の所属はあるが状況確認が不十分なこども及び要対協登録前の段階にある事例という見守りが手薄な対象へのアプローチを行い、潜在的リスク把握と必要な支援につなげる
- 地域拠点での相談や上記対象者へのアプローチを行うなかで、必要に応じて保育所申請や療育利用手続きのサポート、ファミリーサポート事業や一時預かりの利用調整を行い、確実かつ速やかに支援につなげることでリスクの低減を図る

7. 令和5年度事業 指標・実績

指標

子育てサロンなどの利用者に対するアンケートにおいて、身近な地域で相談できる場があって良かったと回答する人の割合 75%以上

実績

97.1%

- 地域の拠点等における子育て相談会や子育てサロン、地域見守り支援拠点を巡回し、保護者からの相談を受けるとともに、気になるこども等について地域ボランティアとの情報交換を行っている。
- 2歳6か月児を持つ全家庭に対し、質問票及び子育て情報の資料を送付。必要に応じて、保健師による相談支援を実施。

指標

子育てサロンなどの利用者に対するアンケートにおいて、身近な地域で相談できる場があって良かったと回答する人の割合 75%以上

- 支援が必要であるが支援に結び付きにくいこどもや家庭など、地域と情報を共有し、必要な支援につなげる取組を継続して実施する
- 2歳6か月児は、成長発達が著しく、第1次反抗期を迎え、保護者にとっては子育てについての悩みや葛藤が生じやすい時期であることから、全家庭に対するポピュレーションアプローチを通じて、必要な相談支援につなげる

2

住吉区版「重大な虐待ゼロ」に向けた地域・医療連携ネットワーク事業（はぐあっぷ推進事業）

令和6年度予算:なし(はぐあっぷ推進事業としては13,253千円を計上)

1. 目的

医療機関との連携のもと、「住吉区版重大な虐待ゼロに向けた地域・医療連携ネットワーク」を構築し、虐待による死亡事案ゼロの状態を維持する。

2. 内容

- 乳幼児健診時、2歳6か月児のポピュレーションアプローチ時に個々のこどものかかりつけ医の情報を把握する
- 区医師会等の協力を得て、年1回程度、区内小児科医療機関を地域担当保健師が訪問するとともに、交流の場を設け、連携体制の構築を図る

3. 令和5年度事業 指標・実績

指標

区内の小児科医療機関へのアンケートにおいて、本事業が児童虐待の早期発見・対応に繋がっていると回答した割合:80%以上

実績

85%

各地域担当保健師が区内22か所の小児科を訪問し、住吉区版重大な虐待ゼロに向けた手引き(大阪府「子ども虐待予防早期発見初期対応の視点」の区版)を配布のうえ、その内容、連絡先や担当者について説明。また、小児科医療機関と訪問看護ステーション等と区役所との情報交換会を開催し、それぞれの虐待防止の取り組みや関係機関連携の必要性について共有した。

4. 令和6年度事業

指標

継続的な顔の見える関係づくりを目的とし、地域担当保健師が区内22か所の小児科医療機関を訪問する。

虐待の早期発見・対応に向け、引き続き、地域担当保健師が区内小児科医療機関を訪問し、顔の見える関係づくりに努めるとともに、関係機関が集う場を開催して横のつながりを強化し、ネットワーク構築を目指す。

3

すみちゃんまちぐるみ「こども安心」見守り事業 (児童虐待防止対策事業)

令和6年度予算:349千円

1. 目的

- こども・子育て世帯にかかわる区内関係機関や地域団体等の関係者が幅広く連携し、支援を要するこどもや子育て世帯に早期に気づいて必要な支援につなげる
- 地域をあげて、まちぐるみでこども・子育て世帯の安全・安心を見守る全区民的な機運を醸成することにより、子育て世帯の不安や孤立の解消を図り、虐待を防止することで、こどもたちが希望をもって健やかに成長し、子育て世帯が安心と喜びを実感しながら子育てできるまちづくりをめざす

2. 内容

- こどもや子育て世帯を見守り、支援を要するこどもや子育て世帯に早期に気づき、必要な支援先につなげていくといった取り組みの趣旨、見守り支援の心得、見立ての仕方や関係機関の連絡先等を記したハンドブックを作成する
- 区内の関係機関や地域団体等の関係者が、子育ての現状を認識し、気づきや発見、見立てへ理解を深められるような研修会・講演会などの機会を提供する

3. 令和5年度事業 指標・実績

指標

研修受講後のアンケートにおける見守りの必要性の理解度75%

実績

90.19%

- 地域団体等の関係者や区内の関係機関等を対象にした研修会を実施
- 「”気づきで救おう”虐待のサインと対応のポイント」(1回)、
- 「あなたの言葉を支援に繋げるために」(1回)重大な虐待ゼロに向けたリーフレットの作成(年1回)
- 重大な虐待ゼロに向けたリーフレットの作成(1月)

2 児童虐待防止関連事業

4. 令和6年度事業

指標

- 地域団体等の関係者や区内の関係機関等を対象にした研修会を実施(年2回)
- 重大な虐待ゼロに向けたリーフレットの作成(年1回)

引き続き、区内の関係機関や地域団体等の関係者を対象に、支援の必要な子どもや子育て世帯への理解と支援等についての研修会の開催やリーフレット等の作成配付を行っていく。

こどもサポートネット事業

令和6年度予算:19,106千円(区CM自由経費)

1. 目的

区内小中学校において、学校生活や家庭生活・家庭環境、経済的困窮等の課題を抱えたこども及び子育て世帯を発見し、区役所における支援チームと連携して、保健福祉の支援制度や地域資源の適切な支援につなぎ、社会全体で総合的に支援するしくみをつくる。

2. 内容

- スクールソーシャルワーカー(以下「SSW」と記載)4名(令和4年度までは2名)、こどもサポート推進員4名を区役所に配置し、担当の学校ごとにチームで活動する
- 学校の教職員による児童・生徒への「気づき」を活かし、その課題の有無及びその現況を見える化したスクリーニングシートを通じ、SSWによる専門的見地から課題の状況を評価し、こどもサポート推進員を通じ適切な支援に繋ぐ

3. 令和5年度事業 指標・実績

指標

こどもサポートネットで個別に支援した事例のうち前向きな変化が見られた割合:50%以上

実績

54.4%

各校で順次スクリーニング会議Ⅱを開催してアセスメントを行い、その結果に基づき支援を行っている。対象児童・生徒のうち、登校支援により学校に登校できるようになった事案やフリースクールなどの学びの場やこども食堂などの居場所につながった事案など

※アセスメント対象のこどもの数68名(令和6年3月末時点)

4. 令和6年度事業

指標

こどもサポートネットで個別に支援した事例のうち前向きな変化が見られた割合 50%以上

昨年度と同様にSSW4名、こどもサポート推進員4名を配置している。教育文化課SSW1名と連携を図りながら、個別支援の取組みを進めていく。また、支援を必要とするこどもや子育て世帯の抱える課題に向き合い、コーディネート機能を果たし教育分野と福祉分野の支援により総合的な支援を行うためのサポートネットの強化に取り組む。

すみちゃん子育て情報フェア

令和6年度予算:127 千円

1. 目的

子育て世帯が子育て支援情報を一度に収集できる場を提供することで、施設やサービスの利用促進を図る。

2. 内容

区内子育て支援施設(保育所・保育園・幼稚園・認定こども園・小規模保育事業所・地域子育て支援拠点)の施設やサービス、保育所の入所手続き等の情報を住吉区役所ホームページや情報誌により提供するフェアを実施。

3. 令和5年度事業 指標・実績

指標

参加者の満足度85%以上

実績

86%

- すみちゃん子育て情報フェアをホームページ上で開催(8月)
- 一部の保育施設等に協力を得て、特色などを紹介した動画を作成していただきホームページに掲載(8月)
- 「すみちゃん子育て情報フェア」情報誌を発行し、区役所や関係施設で配架(8月)
- LINE により子育て情報フェアについてのアンケート調査(12月)

4. 令和6年度事業

指標

参加者の満足度85%以上

- すみちゃん子育て情報フェアをホームページ上で開催(8月)
- 「すみちゃん子育て情報フェア」情報誌を発行し、区役所や関係施設で配架(8月)
- 子育て情報フェアについてのアンケート調査(10月)